

大内宿

2021. 11. 4

9月下旬だったか、母を連れて大内宿に行ってきた。母は、もう90歳を超えている。それでも相変わらずの記憶力である。年齢の割に元気であることは間違いない。

一昨年だったか、郡山に美味しいお蕎麦屋さんを見つけたので、母と家人のご両親を連れていった。せっかくだからということで、三春の高柴デコ屋敷にも足を延ばした。そこで、気が付いた。以前と比べて、母が歩けなくなっている。普段は、一緒に暮らしていないため、分からなかった。

昨年は、喜多方にラーメンを食べに連れていった。母が、喜多方でラーメンを食べてみたいと言ったのである。そんなことを言うのは初めてである。今までそんなことを言ったことはなかった。さすがに90を超えて、やりたいことをやっておこうという心境になったのだろうか。

今年になり、大内宿に行ってみたいと言い出した。どうやら、いろいろな方から、「いいところだから行ってみな」と言われたらしい。それで行ってみたいくなったようである。触発されたということか。元々、史跡名所を巡ることが好きな人である。大内宿が有名な観光地であることも知っている。

実家に迎えに行った。母は杖を準備していた。こんなことは初めてである。大内宿で気付かされた。一昨年、昨年よりも歩けなくなっている。休み休み、前に進んだ。ゆっくりゆっくり歩を進めた。杖がないと、苦しい状況である。

お昼は、蕎麦がいいのか、ラーメンがいいのかと聞いてみた。蕎麦がいいというので、そのまま大内宿で、お蕎麦をいただいた。いつの間にか、大内宿では、一気に「ねぎ蕎麦」を出す店が増えた。これもテレビなどの影響だろうか。

せっかく大内宿まで来たのである。「塔のへつり」はすぐ近くである。だが、私の記憶では、あそこは歩くのが難儀である。とはいえ、とりあえず行ってみることにした。すると、うまい具合に展望台があった。おかげで、一望することができた。

母からは、「いやいや、これが大内宿かい。すばらしいない」「いやいや、これが塔のへつりかい。見事だない」というコメントをいただいた。本当は、歩くことが辛かったのだろうに。本人としては、自分がこんなに足腰が弱くなり、歩けなくなるとは思っていなかったようである。「これが歳をとるとのことだない」と言っていた。

本人もショックであろうが、息子も少なからずショックなのである。分かってはいるのだが、年老いた母親の姿を目の当たりにすると、「さて、どうしたものか」と思いあぐねてしまう。それでもまた「〇〇に行ってみたい」と言ってくれることを期待している。言ってくれるということは、まだ自分としては歩けると判断しているということであろう。

さて、次はどこに連れていくとするか。今更ながらとはいえ、ささやかな親孝行のつもりである。